

日本語と韓国語の聞き手の私的領域に関する言語行動

— 韓国人日本語学習者と日本語母語話者の言語行動に関する調査を通して —

Listeners' Linguistic Behavior in Japanese and Korean in Relation to the
Personal Territory: Examining the Verbal Behavior of Korean Learner's
and Japanese Native Speakers

許 明子

HEO Myeongja

Abstract

There are numerous differences in expressions concerning listeners' personal affairs between Korean Japanese Language Learners and Japanese Native Speakers. This research examines the variety of expressions used by Korean Japanese Language Learners and Japanese Native Speakers in situations where a request with regards to personal belongings of a listener is involved.

The results of the examination show that in conversations involving listener's personal affairs, Japanese Native Speakers frequently use honorific expressions, with a tendency to avoid definite conclusions by employing speculative expressions such as '*yooda, sooda, mitaida*'. In addition, indirect requesting expressions explaining speaker's reasoning for request, such as '*ndesuga*', are widely used.

On the other side, in the case of Korean Japanese Language Learners, it is revealed that a frequency of honorific forms usage is less regular compared to Japanese Native Speakers, with the tendency to employ direct requesting expressions depicting the opponent's point of view or making suggestions.

As a result of the examination it is revealed, that in conversations involving opponent's personal affairs Japanese Native Speakers tend to speculate using modality or contemplating expressions, while Korean Japanese Language Learners tend to employ direct expressions confirming on opponent's situation in order to convey the contents of a request.

1. はじめに

日本語と韓国語は文法的な構造が大変類似しており、韓国人日本語学習者（以下、韓国人学習者という）は他の言語を母語とする学習者に比べ、日本語の文法の学習が早い。その半面、両言語の文法的な特徴の学習に重点を置くと日本語の表現的な特徴や、運用面の違いに関する理解が疎かになる可能性がある。韓国人学習者の日本語の発話の中には、文法的には正しい表現であってもコミュニケーションの行う上では不適切であったり相手に失礼になったりする例がある。

たとえば、韓国人学習者の中には目上の人に対して願望を聞いたり、許可を求めたりする際に次のような表現を使うことがある。

- (1) *コーヒー、召し上がりたいですか。
- (2) *先生のご本、私に貸してくださいますか。

(1)は聞き手の願望を聞いている場面、(2)は聞き手に依頼している場面であるが、日本語では目上の人に対して直接的に希望や願望を聞くと丁寧さが損なわれて不適切な表現になったり、非文法的な表現になったりすることがある。しかし、これらの例文と同じ意味を韓国語で表現した場合、次の(1)' (2)'のようにいずれも自然な表現になる。

- (1)' 커피, 드시고 싶으세요?
keopi deusigo sipuseyo? ¹⁾
コーヒー、召し上がり たいですか。
- (2)' 선생님 책 저에게 빌려 주실 수 있으세요?
seonsaengnim chaek jeo-ege billyeo jusil su isseuseyo?
先生 (の) 本 私に 貸して くださいますか。

このような日本語と韓国語の相違点から、韓国人学習者は文法的には正しい文でも発話の場面によっては不適切になる表現を使用することが多い。

その他にも、韓国語母語話者は初対面の人に対しても相手のアイデンティティに関わる内容について踏み込んだ発話を行い、コミュニケーション上の摩擦や誤解を招くことがある。任榮哲（2006：9）では、「コミュニケーション上の誤解や摩擦は、文法的な違いだけではなく、それぞれの帰属グループ固有の話し方の違いから生じることが多い」と述べ、「コミュニケーション・スタイル²⁾の違いが思わぬ誤解を生み、それが積み重なり、結果的に互いの姿をゆがんだ鏡で写し出してしまうことがある」と日韓のコミュニケーション・スタイルの問題について指摘して

1) 韓国語のローマ字表記は 2000 年 7 月 7 日に告示された大韓民国文化観光部 2000 年式によるものである。
2) 任榮哲（2006：9）では「コミュニケーション・スタイル」について会話を円滑に運ぶための戦略であると述べている。その戦略には、いつ話しはじめ、いつ止めるか、どんな話題を選んだらいいか、どんな調子でどのくらいの速さで話すかなどがあると述べている。

いる。つまり、韓国人学習者が日本語を学び、上手なコミュニケーション活動を行うためには、日本語の文法的な特徴の学習だけではなく、両言語の言語運用の面に関する理解も重要であると言える。

そこで、筆者は韓国人学習者と日本語母語話者のコミュニケーション・スタイルの違いを明らかにし、日本語教育の現場に応用する方法を探るために、主に依頼場面における言語表現について韓国人学習者と日本語母語話者を対象に調査を行い、分析を行った。本稿では、その調査の分析結果に基づいて韓国人学習者と日本語母語話者の間にどのようなコミュニケーション・スタイルの違いがあるのか、また言語表現の使用傾向についてどのような違いがあるかについて考察を行う。

2. 先行研究

2.1 日本語の聞き手の私的領域

鈴木（1998：56-58）は、丁寧体の世界では話し手と聞き手の間に一線を引いて、話し手側のことと聞き手側のことをはっきり分けて表現することが基本となっており、聞き手の私的領域に関係する内容の発話をもっとも制限が強く回避されると述べている。聞き手の私的領域に関連のある内容の発話を避けることによって、聞き手に対する丁寧さが保たれるとしている。言い換えると、聞き手の私的領域に関する内容に踏み込んだ発話を行った場合、丁寧さに欠け、不適切な発話になる可能性があるとも言える。事実、外国人日本語学習者の中には、しばしば文法的には正しい文であっても、丁寧さの観点からは不適切であったり、相手に不快感を与えたりする発話を行うことがある。

鈴木によると、次の〈図1〉のように聞き手の私的領域の内部には中心部に位置するものと、その周辺部の位置するものに段階性が存在し、中心部と周辺部にはそれぞれ異なる言語内容が含まれるという。

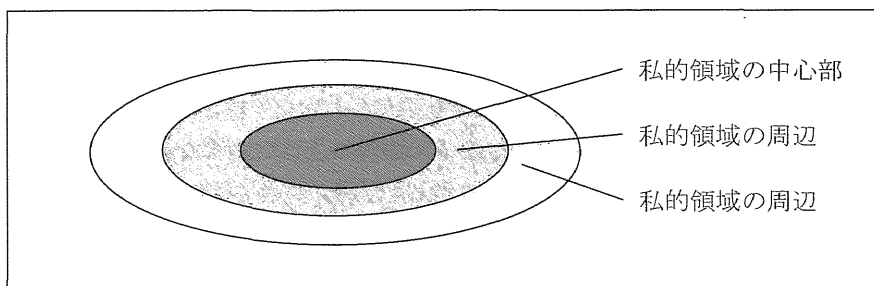


図1 「聞き手の領域」内部

中心部の濃い色の部分は聞き手の私的領域のもっとも中心部のもので、発話内容としてもっとも制限が強いものであり、外側の制限が弱いものへと段階的に存在しているとされている。これらの聞き手の領域にかかわる言語内容について丁寧さを保った表現を用いるためには、それぞれの段階に適切な言語形式を選択しなければならない。さらに、聞き手の私的領域の段階に関連する言語内容および言語形式の選択について、鈴木（1997:62）は以下の〈図2〉のように示した。

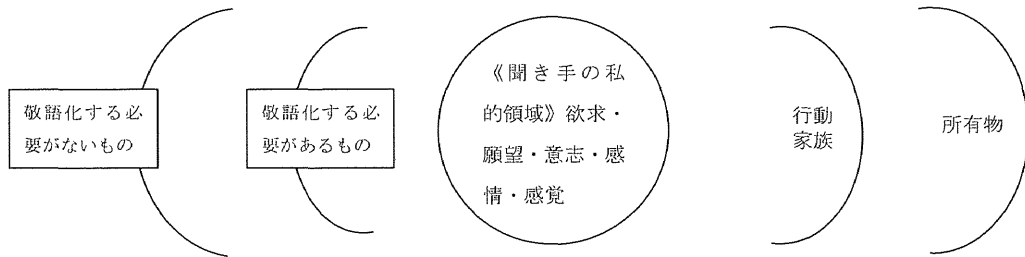


図2 聞き手の領域に関する制限の段階性

〈図2〉で表している聞き手の領域の段階性とそれに関連する言語表現の制限というのは、聞き手の私的領域の中心部にある「聞き手の欲求、願望、意思、感情、感覚」などについては発話を避け、周辺部に位置する「聞き手の行動や華族、所有物」などについては発話する際に敬語を用いる必要があるということを表している。もっとも外部に位置する聞き手と関係のないものについて言及する際には、敬語を使用する必要もない。

日本語母語話者は聞き手の私的領域の中心部に位置する言語内容と周辺部に位置する言語内容に関する認識を持っており、聞き手との関係を考慮し、適切な言語表現形式を選択している。つまり、聞き手の欲求、能力、感情等については踏み込んだ発話を避け、行動、家族、所有物等については敬語を使用することによって、丁寧さを保ちながら相手に不快感を与えないようなコミュニケーション活動を行っているのである。

このように聞き手の私的領域の周辺部の所有物などに関する発話は敬語を使うことによって丁寧さが保たれるが、所有物の中にも敬語化する内容に段階性がある。日本語の敬語表現の自然さ、適切さについて角田（1991:119）は「所有傾斜」の概念が重要であると述べている。角田の「所有傾斜」とは、相手の所有物の中で聞き手の身体や属性に関するものはもっとも敬意の度合いを高める必要があり、その他の所有物には敬意を高める必要が弱くなるという概念である。角田は「所有傾斜」には以下のような段階があると述べている。

身体部分 > 属性 > 衣類 > (親類) > 愛玩動物 > 作品 > その他の所有物

所有物の中でも聞き手の領域にもっとも近いもの（身体部分）がもっとも敬語使用の必要性が高く、丁寧な表現が求められる。次に、相手の属性、衣類、愛玩動物、作品、その他の所有物の順に敬意の度合いが低くなるとされている。

以上の先行研究で明らかにされている「聞き手の私的領域」や「所有傾斜」の概念は、話し手が聞き手と適宜な距離を保ちつつ、丁寧な表現を用いて、円滑なコミュニケーションを行う上で重要な概念であると言える。

日本語を母語とする人は、このような日本語の言語行動の特徴からそれぞれの場面で適切な言語形式を選択し、聞き手に不快感を与えずに円滑なコミュニケーション活動を行っているのである。しかし、韓国人学習者をはじめとする外国人日本語学習者が日本人と異なる認識を持っていたり、聞き手の私的領域に関する認識が薄かったりすると、文法的には正しい文であっても誤解や摩擦を引き起こす発話を行う恐れがある。

2.2 日本語と韓国語の言語表現の特徴

韓国人と日本人が出会い、初対面である人同士の会話でも韓国人はたびたび以下のような質問をすることがある。

- (3) (あなたは)何歳ですか。
- (4) いつ日本へ来ましたか。
- (5) 結婚はしましたか。子供はいますか。
- (6) (あなたの)ご主人は何をしていますか。

初対面の韓国人から唐突にこのような質問を受けると、日本人は戸惑いを感じ、不愉快になる人もいだろう。このようなことは日本人と韓国人の交流の場ではよく遭遇する場面のようなのである(生越2008)。上のような質問は日本人と韓国人の間だけではなく、韓国人同士もしくは初対面の先生と学生という間でも聞かれることがある。上の(3)~(6)のような質問は初対面の人同士、もしくは親しくない人との会話としては不適切であり、聞き手に対して配慮に欠けた発話である。しかし、韓国人は相手のアイデンティティに関わる領域を侵害したという意識はなく、お互いを知るために素直に質問しただけという意識の人が多く、(3)~(6)のような質問は、日本語と韓国語の言語表現の違いを端的に表しているものであると言える。

また、韓国語も日本語と同じく敬語が発達している言語の一つであるが、敬語の使用に関する考え方には相違点が存在している。日本語は「ウチとソト」の概念が重要である反面、韓国語は「上下関係」が重要である(韓美卿1982)ため、敬語の表現形式にも大きな差が生じている。荻野(1989:61)では、日本語と韓国語の敬語の使用に関する言語行動の対照研究を通して、「韓国では敬語の使い分けの基準として「聞き手の年齢差」が大きく働くのに対して、日本語では「聞き手との社会関係や親疎関係」が大きく働く」と述べている。これらの先行研究から推測される日本語と韓国語の言語行動の特徴は、日本語では話し手と聞き手の社会関係が重要視され、聞き手がソトの人である場合は丁寧な表現が用いられるのに対して、韓国語では聞き手がソトの人であっても話し手より目下(もしくは同等な関係)である場合は親密感を表す表現が用いられやすいのではないかとということである。

任榮哲(2006:13)は、韓国語と日本語の言語行動の特徴を「攻める韓国人と待つ日本人」と表現し、「韓国人の話し方は、日本人の目にはストレートで攻撃的にとらえられ、日本人の話し

方は、韓国人には、核心をつかないもどかしいものであり、相手に心を開いていない印象を与える」と述べた。その例として、初対面の相手との会話で、韓国人は日本人に比べて「相手への質問数」が多く、日本人は韓国人に比べて「自己開示の話題数」が多いという調査結果を述べている。日本人は「自己開示」する表現を用いることによって、相手への察しに基づいて情報を引き出す婉曲的な表現を好むのに対して、韓国人は「何、どこ、どうして」などの疑問詞を使った質問をすることによって相手への関心をはっきり示す表現を好むといえる。韓国人は相手に親近感を表す方法として、疑問詞を使った質問文を選択しているわけであるが、質問文の言及する内容が聞き手の私的領域に踏み込むことが多く、それが相手に無礼と感じさせたり不快感を与えたりすることにつながっていると考えられる。

生越（2006）は、韓国人と日本人が相手の所有物を使う際の言語表現の特徴について調査分析を行った。日本人は相手の所有物を使用する際に必ず声をかけて了解をとっているのに対して、韓国人は声をかけることなく無断で使用して、相手に抵抗感を与えることから、東京、大阪、ソウル、プサンに在住の日本人と韓国人を対象に相手の所有物を使用する際の表現方法について調査を行った。その結果、「東京ではたとえ親しい間柄でも相手が了解なしに自分の領域を侵害することに否定的だが、ソウルでは親しい間柄なら了解なしでも許容する」傾向があることを明らかにした。韓国人学習者が何も声をかけずに相手の所有物を使用し、日本人が違和感を持つようなハプニングはよく耳にするが、その背景には韓国人と日本人の言語行動の違いがあると考えられる。

以上の両言語の言語行動に関する先行研究から、韓国人学習者は聞き手の私的領域に関わる言語内容でも踏み込んだ発話をしたり、相手の所有物を無断で使用したりして、不快感を与える可能性があると言える。両言語の異なる表現的な特徴から誤解が生じたり、コミュニケーション活動に支障をきたすようなことを防ぐためにはお互いの言語行動の特徴を理解する必要があるだろう。

本研究は鈴木（1989、1997）の「聞き手の私的領域」と角田（1991）の「所有傾斜」の概念に基づいて、日本語母語話者（本調査の対象となった日本語母語話者。以下、JNS³⁾という）と韓国人日本語学習者（本調査の対象となった韓国人日本語学習者。以下、KNSという）の表現形式について比較対照を行い、両者の言語表現の特徴について考察を行った。調査内容としては、聞き手の私的領域に属するものに対して依頼を行う際にどのような言語形式を用いるかについて調査を行った。依頼表現の他にも、聞き手の私的領域の中心部に存在する言語内容の中で、特に韓国人学習者の発話に多くみられる聞き手の健康状態について言及する場面を設定し、どのような表現形式を用いるかについて調査を行った。本研究の分析結果によって、JNSとKNSの言語表現の特徴が明らかになり、韓国人学習者の発話に対する理解が深まることを期待する。

3) 本稿における JNS とは本研究の調査対象となった Japanese Native Speaker を指し、KNS とは本研究の調査対象となった Korean Native Speaker を指す。

3. JNSとKNSの依頼表現に関する調査

本調査では、聞き手の私的領域の中にある所有物について依頼を行う際にJNSとKNSがどのような表現を用いるかについてアンケート調査を行った（アンケート調査内容はく資料1を参照）。KNSの言語表現の特徴を明確にするために、JNSにも同様なアンケート調査を行い、両者の調査結果を比較し、分析を行った。

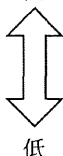
3.1 調査内容および方法

一般的に話し手が聞き手に対して依頼したり何かの負荷をかけたりする際には丁寧な表現を用いるが、特に聞き手が目上の人であったり、直接的に関係がある場合は丁寧さを保つために様々な工夫をこらすと思われる。本調査では、私的領域の周辺に位置するものであり、かつ聞き手の所有物として敬語化する必要があるものに対して、JNSとKNSがどのような表現を用いて依頼するかについて調査を行い、比較分析を行った。

本調査で聞き手は目上もしくは対等な関係の人であり、敬語を使用して依頼する場面を設定した。また、依頼を行う対象になる所有物は所有傾斜の高いものから低いものへと段階的に差があるようにした。依頼する内容は次の6つの場面である。

- ① 先輩にコンピュータの使い方を教えてほしい
- ② 友達に携帯電話を貸してほしい
- ③ 指導教官に著書を貸してほしい
- ④ 友達にレポートを見せてほしい
- ⑤ 先輩に英語が話せる外国人の友達を紹介してほしい
- ⑥ 具合が悪そうな先生を気遣う⁴⁾

さらに、以上の聞き手と関係のあるものを角田の所有傾斜の概念に基づいて表すと次のような傾斜で示すことができる。

相手	所有物	所有傾斜
指導教官、先生	身体部分（体調、健康状態）	高  低
先輩	属性（コンピュータの使い方）	
友達	作品（著書、レポート）	
	所有物（携帯電話）	
	その他の所有物（友人）	

4) 前述したように⑥は依頼場面ではないが、韓国人学習者の発話に多くみられ、日本人とは異なる言語表現が見られると予測されるため、調査項目の一つとして設定した。

これらの聞き手の私的領域に関わるものについて、話し手の希望もしくは依頼をできるだけ丁寧な表現で、相手に直接依頼を行う際に用いると思われる表現を書くように指示した。

依頼を受ける人は、指導教官、授業を担当する先生、先輩などと、丁寧な話し方をしなければならない相手と、ある程度くだけた話し方ができる先輩や友達のような人もいる。しかし、依頼内容が聞き手に対して負担をかける内容であるため、丁寧な表現を使うか、配慮した表現を使う必要があるように場面設定を行った。依頼の指示文にも可能な限り丁寧な話し方をするように指示した。

アンケートの回答は、JNSは日本語版のみ使用して日本語で回答してもらった。KNSは日本語と韓国語の表現を比較するため、日本語版と韓国語版の2種類のアンケート用紙を用いて調査を行った。まず日本語版は日本語で回答し、その次に韓国語版は韓国語で回答するようにした。韓国語版の回答の際には日本語の表現とは関係なく、普段自分が使用している韓国語の表現を使って回答するように指示した。本研究ではJNSの日本語表現、KNSの日本語表現、KNSの韓国語表現の3種類の言語表現について分析し、考察を行った。

3.2 調査の概要

調査期間は2009年5月～7月の2か月間にかけて、筑波大学内で実施した。KNSの中には筑波大学学類の卒業生も含まれているが、卒業生にはEメールでアンケート調査を依頼し、添付ファイルでアンケート用紙を送信、回答後返信してもらった。調査対象は、筑波大学で学んでいる（もしくは学んだ経験がある）韓国大学生24名と、筑波大学の学類および大学院で学んでいる日本人学生29名を対象にした。KNSは留学生センターで日本語を勉強しているか、もしくは日本語を専門として学んでいる学生で、全員日本語能力試験1級に合格しており、かなり高い日本語力を有している学生を対象とした。

KNSの日本滞在期間は最短で6カ月程度の学生もいるが、5年以上の学生も多数含まれている。日本滞在期間が1年未満の学生は韓国で日本語を専門として学んでいる短期交換留学生であり、滞在期間は短い、かなり高い日本語能力を有している。また、日本滞在期間が5年以上の学生は国費学部留学生制度で来日し、学類に在学しているか卒業した学生が含まれている。JNSはKNSと同じような生活環境を持っている学生にするために、筑波大学で学んでいる学部生、大学院生を対象とした。調査対象となったKNSとJNSの専門分野は文系から理系に至るまで幅広く、様々な専門分野の学生から協力が得られた。

4. 調査結果

本稿では、調査の結果についてもっとも所有傾斜の高い聞き手の健康状態について言及する場面（アンケート調査の(6)番）と、もっとも傾斜の低い聞き手の友人を紹介してほしいという場面（アンケート調査の(5)番）を中心に分析結果を報告する。KNSとJNSの日本語について両者を比較しながら考察を行い、KNSの韓国語と日本語についても考察を行う。

4.1 聞き手の健康状態をうかがう場面

韓国では、相手の身体的な特徴について述べたり、相手の身体的な特徴や印象について述べたりすることが多い。相手の健康状態を気遣い、心配する気持ちを表現するのは一般的なことであり、場合によっては良いこととされている。しかし、日本では相手が目上の人の場合、相手の具合の悪さを描写したり、直接質問したりすることは一般的ではなく、場合によっては不快感を与える恐れがある。この調査項目で設定した場面は、韓国の日常生活ではよく遭遇するが、日本ではあまり一般的ではない場面であるため、両言語の表現的な特徴に差が見られると予測される。

本節では「聞き手の健康状態を聞く」場面におけるKNSとJNSの日本語の言語表現について分析し、両者の比較を行う。最後に、KNSの韓国語の言語表現についても分析を行い、KNSの韓国語の日本語への影響について考察を行う。

まず、KNSの日本語の表現には、次の3つの特徴が認められた。

- i) ほとんどのKNSが「顔色が悪い」「顔色がよくない」のように具合が悪く見えることについて直接描写し、「大丈夫ですか」と質問していた。
- ii) 話し手の推量を表すモダリティ表現「ようだ・そうだ・みたいだ」がほとんど使われていなかった。
- iii) 「～ほうがいい」などの助言する時の表現を使用している。

以下、これらの特徴を示す表現についていくつか例をあげる。例文の中で は相手の具合の直接描写、 は推量を表すモダリティ表現、 は助言する表現であることを示す。

- ・先生、顔色が悪いです。大丈夫ですか。
- ・先生、顔色がよくないですけど、大丈夫ですか。
- ・先生、最近先生の顔色が悪そうに見えますが、体の具合は大丈夫ですか。
- ・先生、具合が悪く見えるんですが、何か悪いことでもありますか。
- ・先生、顔色が悪く見えます。大丈夫ですか。
- ・先生、ちょうしが悪いんですか。顔色が悪くみえます。
- ・先生、大丈夫ですか。顔色がよくないんです。
- ・先生、顔色がよくなく見えるんですが、最近、体の具合はどうですか。
- ・先生、今、顔色が悪いんです。ちょうしがよくないんですか。
- ・先生、顔色がよくないです。大丈夫ですか。
- ・先生、この間、体のどこかが悪いですか。
- ・先生、どうしましたか。少し体調悪そうですが。
- ・少しお休すみになった方がよろしいと思うのですが。
- ・先生。大丈夫ですか。顔色が悪いんです。時間があつたら、ちょっと休んだほうがいいと思うんですけど…。大丈夫ですか。

- ・先生、大丈夫ですか。ちょっと顔色が悪そうですけど。少し休むほうがいいんじゃないですか。

直接的な描写表現と断定する表現を明確に区別できない場合もあったが、KNSの表現のもっとも大きな特徴は「顔色が悪い、顔色がよくない、悪くみえる」などのマイナスのニュアンスを持っている言葉をそのまま使っていることである。一般的に相手の健康状態が悪いことを表現する際には、話し手の推量を表す「ようだ・そうだ・みたいだ」のようなモダリティ表現を付け加えることによって、聞き手の体調を気遣っている気持ちを柔らかく伝える。しかし、KNSの発話は、マイナスのニュアンスを持っている表現をそのまま使って、断定するような表現を使っているため、相手を気遣うKNSの意図とは異なるニュアンスを表す可能性がある。

それに比べ、JNSの日本語はKNSの日本語とは異なって、以下の3つの特徴を持っていた。

- iv) 敬語（丁寧語）の使用が多く見られた。
- v) 推量のモダリティ表現「ようだ・そうだ・みたいだ」を使って断定を避ける言い方をしていた。
- vi) 「～のほう」などのぼかし表現、「いかがですか」「の(ん)ですが…」のような婉曲的な表現を用いていた。

以下、これらの特徴を示す表現について例をあげる。……は敬語の使用、……はぼかし表現・婉曲的な表現が使われていることを示す。

- ・先生、顔色が悪いようですが、お体の調子はいかがですか。
- ・先生、なんだか調子がよろしくないようですが、具合のほう、いかがでしょうか。
- ・先生、お体の加減がよろしくないようですが…。
- ・先生、顔色が悪いようですが、体調が良くないのでしょうか。
- ・先生、顔色がよくないようですが、どこか悪いのですか。
- ・顔色が悪いみたいですけど、大丈夫ですか。どこか具合が悪いんですか。
- ・先生、お疲れですか。あまり元気がないのかなと思うのですが。
- ・大丈夫ですか。顔色がよろしくないのですか。
- ・顔色がすぐれないみたいですけど、具合悪いんですか。
- ・先生、お顔の色がすぐれないようですが…。
- ・先生、お顔色がすぐれませんが、お気分はいかがですか。
- ・先生、顔色が悪いようですが…大丈夫ですか？無理なさらないでください。皆心配しています。

KNSとJNSの表現のもっとも大きな違いは、「悪い、よくない」のようなマイナスのニュアンスを表す表現には必ず「ようだ・そうだ・みたいだ」などの推量を表すモダリティ表現が併用されていることである。KNSの表現には「悪い、良くない」という印象を直接的に伝える表現が使われていたのに対して、JNSの表現には自分の主観的な印象であることを伝えようとする意識が働い

ているものと思われる。JNSは推量のモダリティ表現を用いることによって、聞き手の私的領域に踏み込んだことに対して、相手の感情に配慮しているのではないかと考えられる。

また、JNSとKNSの表現には敬語の使用に大きな違いが見られた。JNSは高い敬意を表す敬語を使用しており、「お気分」「お顔色」「お体」「よろしくない」「お悪い」「お疲れ」などの敬語を用いたり、「お顔色がすぐれませんが」のような丁寧な表現を用いたりしていた。他方、KNSの例文には「お顔」などの敬語の使用は一人も見られなかった。目上の聞き手に対して身体の一部の特徴を言及しているにも関わらず敬語の使用が見られなかったことは注目すべき結果である。

JNSの例文には「(具合)のほう」「(元気がない)かな」のようなぼかし表現、「のですが…」 「いかがですか」などのような婉曲的な表現が使われていたことは興味深い結果である。日本語では相手に対する配慮表現として、ぼかし表現や婉曲的な表現の多用が指摘されている(陣内2006)が、本研究の調査においてもJNSにぼかし表現が多く表れていた。しかし、KNSにはぼかし表現や婉曲的な表現が使われていなかった。

さらに、KNSは相手に対して「休んだ方がいい」という助言を言う例があったが、JNSの中には助言を言った学生はおらず、次のような申し出の表現を使った例があった。

- ・先生、顔色がお悪いようですが、大丈夫ですか。何かできることがあれば何でも言ってください。

JNSの場合、先生の体調について言及することによって差し出がましい印象を与えるかもしれないと思い、その後に手伝いの申し出の表現を使っていたものと思われる。KNSが先生に対して助言を行った後でも相手に対する配慮表現を使っていなかったことは対照的である。

次に、KNSの韓国語の表現、つまりKNSの母語を分析した結果、丁寧な表現がたくさん使われており、JNSの日本語に敬語が多く使われていたのと同じ特徴が見られた。KNSの韓国語の特徴は以下の2つである。

- vii) 敬語を使った丁寧な表現が多く使われていた。
- viii) 助言や質問する表現が使われていた。

以下、KNSのこれらの特徴を表す表現についていくつか例をあげる。例文の中で……は敬語の使用、 は助言を行う表現であることを示す。

- ・안색이 안 좋아 보이시는데, 괜찮으세요.
(顔色がよくなく見えますが、大丈夫ですか。) ⁵⁾
- ・선생님, 어디 편찮으세요? 오늘 너무 안 좋아 보이세요. 쉬셔야 하는 거 아니예요?
(先生、どこか具合でも悪いんでしょうか。今日、とてもよくなく見えます。休まないとい
けないんじゃないですか。)

5) 韓国語による作文の日本語訳は、韓国語のニュアンスを生かすために筆者が日本語に直訳したものである。

- 어디 편찮으신가요? 안색이 매우 좋질 않습니다.
(どこか具合でも悪いですか。顔色がとてもよくないです。)
- 선생님, 얼굴색이 많이 안 좋아 보여요. 어디 편찮으신 곳 있으신 건 아니에요?
(先生、顔色がとてもよくなく見えます。どこか具合が悪いのではありませんか。)
- 선생님, 어디 편찮으세요? 얼굴색이 안 좋으세요. 어디 아프신 것 같은데, 좀 쉬시는게 어떠세요? 짐이라도 들어 드릴까요?
(先生、どこか具合でも悪いんですか。顔色がよくないですね。どこが悪いようですが、少し休んだらいかがでしょうか。荷物でも持って差し上げましょうか。)
- 선생님, 안색이 안 좋은데 어떤 일이세요? 편찮으세요? 좀 쉬세요.
(先生、顔色がよくないですが、どうされましたか。大丈夫ですか。少し休んでください。)
- 선생님, 오늘 안색이 안 좋아 보이는데, 편찮으세요? 좀 쉬시는게 좋을 거 같은데…。
(先生、今日顔色がよくなく見えますが、大丈夫ですか。少し休んだほうが良いと思います。)
- 선생님, 오늘 얼굴색이 안 좋아 보이는데요. 어디 편찮으신 것 아닌지요?
(先生、今日顔色が悪く見えますね。どこか具合が悪いのではないのでしょうか。)
- 선생님, 오늘 어디 안 좋으세요? 식사는 하셨어요? 잠은 주무셨어요? 몸 잘 챙기셔야죠. 걱정 되잖아요.
(先生、今日、どこか具合が悪いですか。食事はされましたか。睡眠はとりましたか。体に気をつけなといけません。心配になりますよ。)

ここで注目したいのは、日本語で「先生に休んだ方がいい」という助言したKNSの2人の中の1人は韓国語でも「좀 쉬세요 (少し休んでください)」と助言をしている。しかし、他の4人のKNSは日本語では表現しなかったが、韓国語では「좀 쉬시는게 어떠세요? (少し休んだらどうですか)」のような表現を使っていた。さらに、その中の1人は、食事や睡眠のことまで言及しており、かなり差し出がましい印象を与える恐れがある。

これらの例文からわかることは、JNSもKNSもそれぞれの母語で表現する際は丁寧な表現を使っており、相手に対する気遣いが感じられる。特に、韓国の日常生活では相手の健康状態や心理状態を聞くような表現があいさつ代わりに使われており、よく「食事をしているのか」「睡眠をとっているのか」「休んでいるのか」などについて質問することもある。しかし、日本では目上の人に対して助言をしたり、「食事をしているのか、眠れているのか、ちゃんと休んでいるのか」などについて質問したりするのは不適切であろう。KNSの中には相手の健康状態や心理状態に関わる質問をしたり、気遣う表現をする人がいるが、相手に対する親近感を表すことによって距離感を縮めようとする意識が働いている(任榮哲2006)のではないかと考えられる。これについてはさらに考察を続け、今後の課題としたい。

4.2 先輩に友人の紹介を依頼する場面

この項目は先輩にイギリス人の友人を紹介してほしいと依頼する場面であるが、所有傾斜では「その他の所有物」であり、聞き手と所有物（友人）は異なる個体である。今回の調査内容の中では、聞き手の私的領域の中でもっとも周辺に位置するものであり、敬語使用の必要性はあまり高くない。

この項目の調査結果については、聞き手に対して話し手の状況説明（友人を紹介してほしい理由）や、聞き手への配慮表現を中心に分析を行った。

まず、JNSの表現的な特徴は次の3つにまとめられる。

- a) 条件文を使った前置き表現が多かった。
- b) 推量のモダリティ「そうだ」と「～たり」を使ったぼかし表現が使われていた。
- c) 「んです」文を使った理由説明の表現が多かった。

以下、これらの特徴を表す例をあげる。JNSのもっとも大きな特徴である条件文による前置き、「んです」の使用に注目して例文を見てほしい。例文の中で_____は条件文を使った前置き表現、 はぼかし表現、 は「んです」文を使った理由説明文であることを示す。

- ・良かったら、イギリス人のお友達の〇〇さんを紹介していただけませんか。もっと英語を話す練習がしたいんです。
- ・ちょっと英語でおしゃべりしてもらえる人を探しているんですけど、良かったら紹介してもらえませんか。
- ・先生のお知り合いにイギリスの留学生いましたよね？もし時間にヨユウがありそうだったら、紹介していただけませんか？
- ・もしよかったら、先輩の友達のイギリスの留学生を紹介していただけませんか。
- ・英語が話せる留学生と友達になりたいんですけど、〇〇さんを紹介してくれませんか。
- ・先輩、〇〇さんとお話してみたいんですけど、紹介してもらえませんか？
- ・留学生と友人になりたいんですが、紹介してもらえますか。
- ・私、英語が上手な留学生と友達になりたいんですが、その人を紹介してもらえたりしませんか。
- ・英語の勉強がしたいと思っているのですが、よかったら先輩のお友達のイギリスからの留学生を紹介してもらえませんか。

JNSの例文から分かる表現形式の特徴は、JNSの表現の中に「んですけど」の使用が多いことである。JNSのほとんどの例文に、相手への配慮表現の前置きとして「もしよかったら」「よかったら」のような条件文が使われていたことはKNSとは異なる特徴である。さらに、「もし時間に余裕がありそうだったら」「紹介してもらえたりしませんか」のようなぼかし表現の使用もJNSの特

徴の一つである。これらの前置きとぼかし表現は、依頼内容に対する相手の負担を和らげる意味合いが含まれていると考えられる。

JNSの表現内容の特徴は、相手に依頼する表現形式を使う前に、友だちを紹介してほしい理由について説明することが多く、その場合、「んですけど」「～なのですが」「ので」の言語形式を使っていたことである。「んです」文は依頼する理由や自分の状況を説明することによって推測を促したり、依頼を受け入れるか断るかに対する判断を委ねたりするストラテジーとして使われる。KNSの調査結果ではJNSほど「んです」文が使われておらず、外国人学習者にとって「んです」文の習得の難しさ（野田2001）が改めて確認された。

次に、KNSの調査結果について考察を行う。KNSの日本語表現の特徴は以下の3つにまとめられる。

- d) JNSに比べ前置き表現の使用が少なかった。
- e) JNSに比べ「んです」文の使用が少なかった。
- f) 相手の状況を確認する表現が使われていた。

KNSの日本語には、JNSに比べて「もしよかったら」などの表現が少なく、今回の調査では3名だけであった。また、「できれば」を使った学生が1名（日本滞在歴7年）で、いずれも日本滞在期間が5年以上の学生であった。しかし、日本語で「もしよかったら」などの表現を使った学生でも、韓国語の表現の中にはそれに該当する「만약 괜찮으(시다)면 (もしよろしければ)」などの表現は見当たらず、「소개시켜 주시면 안 돼요? (紹介してくれたらいけませんか?)」のような文末表現を使っていた。日本での滞在期間が長いKNSでもJNSに比べて「もしよかったら」のような前置きの使用が少なく、依頼の定型表現のみ使用していることがわかった。

以下、KNSの日本語の表現と、その人の韓国語の表現を並べて紹介する。KNSの日本語と韓国語を比較するため、KNSの日本語、韓国語（韓国語を直訳した日本語文）の順に例をあげる。例文の中で は条件文を使った前置き表現、 はぼかし表現、 は「んです」文を使って理由を説明している文であることを示す。

- ・私、英語の勉強をずっとしてはいるのですが、話して使う機会がなくて困っています。でき
れば、先輩の友達をご紹介していただけますでしょうか。
혹시, 그 분 좀 소개 받을 수 있을 까요? (もしかして、あの方、ちょっと紹介してもらえますか。)
- ・Aさんと仲良くなりたいと思いますが、Aさんを紹介お願いしてもいいですか。
이 다음에 그 유학생 만나면 제가 친구 되고 싶다고 좀 전해 주세요. (今度、その留学生に会ったら私が友だちになりたいと伝えてください。)

- ・先輩の友達の中でイギリス人の留学生いますよね？私英語が話せる人と友達になりたいですけど、紹介してもらえますか？
저 영어 잘 하는 친구를 사귀고 싶은데요. 소개 좀 해 주시면 안 될까요? (私英語が上手な友だちにつきあいたいけど、ちょっと紹介してくれませんか)
- ・先輩の友達の中でイギリスのXX君いるじゃないですか。僕ちょっと友達になりたいんですけど、紹介してくれませんか。
형, XX랑 잘 알죠? 영어 공부 좀 하려는데 소개시켜주면 안 될까요? (兄さん、XXと知り合いでしょう。英語の勉強しようと思うけど、紹介してくれませんか。)
- ・先輩、イギリスから来た留学生と友達だそうですね。実は英語のうまい人と友達になりたいんですけど、その人を紹介してくれませんか。
선배 친구 중에 영어를 잘 하는 유학생이 있다고 들었습니다. 그 사람을 소개해 줄 수 있나요? (先輩の友だちの中で英語が上手な留学生がいると聞きました。その人を紹介してくれますか。)
- ・先輩の友だちの中でイギリスから来た留学生いますよね。もし、よかったら紹介してもらえませんか。だったら助かりますけど…。
선배 친구 중에 영국에서 온 유학생 있잖아요? 저 좀 소개시켜 주시면 안 돼요? (先輩の友だちの中にイギリスから来た留学生いるじゃないですか。私にちょっと紹介してくれませんか。)
- ・先輩の親しい友達のイギリスの留学生と親しくなりたいです。もし、よかったら紹介してくれませんか。
선배, 그 영국 유학생하고 친해요? 저 영국가고 싶어서 이것저것 물어보고 싶은데, 소개 좀 시켜주세요 ㅠㅠ. (先輩、そのイギリスの留学生と仲いいですか。私、イギリス行きたいから色々聞きたいけど、紹介してください。)
- ・先輩の知り合いの中にイギリスの方がいると聞いたんですけど、もしよければ紹介してくださいませんか。
선배 친구 중에 영국인이 있다는 말을 들었는데… 좀 소개시켜 주십 안 될까요? (先輩の友だちの中でイギリス人がいると聞きましたが…ちょっと紹介してくれませんか。)

JNSの日本語とKNSの韓国語のコミュニケーション・スタイルを比べてみると、KNSの韓国語のほうがJNSの日本語より親近感を表す表現が多く使われていることが分かる。JNSは相手に依頼をする際に丁寧に表現するコミュニケーション・スタイルをとっているのに対して、KNSは親近感を込めた表現を使って依頼するコミュニケーション・スタイルをとっている。前述したように、JNSは「もしよかったら」などの前置きを使って相手に対する配慮表現を使っていたが、KNSは「ご飯おごりますよ」「よかったら一緒に食事でもどうですか」などのような距離感を縮めるための表現を使っていた。

さらに、JNSのほとんどの人が「んです」文を使って、話し手自身の状況を説明したり、依頼す

る理由について説明していた半面、KNSの日本語と韓国語の表現には「んです」文が少なく、その代わりに相手の状況を確認する内容の表現が使われていた。つまり、JNSは「英語を学びたい」という状況を説明することによって相手に依頼の内容を察してもらおうとしていたが、KNSは聞き手にイギリス人の友人がいることを確認することによって依頼の内容を伝えようとしていた。たとえば、KNSの韓国語の中に「선배 친구 중에 영국에서 온 유학생 있잖아요? (先輩の友達の中にイギリスから来た留学生いるじゃないですか?)」「선배 친구 중에 영어를 잘 하는 유학생이 있다고 들었습니다 (先輩の友だちの中に英語が上手な留学生がいると聞きましたが)」「형, XX랑 잘 알죠? (兄さん, XXと知り合いですよね)」「선배, 그 영국 유학생하고 친해요? (先輩、そのイギリスからの留学生と親しいですか)」のようなイギリス人の友達の存在を確認したり、先輩との関係を聞いたりする表現が文中に含まれていたが、JNSにはそのような表現は見られなかった。

このように、JNSとKNSには明確なコミュニケーション・スタイルの違いがあることが明らかになった。

5. まとめ

日本語と韓国語の文法的な特徴の類似さは従来の対照研究でも指摘されており、韓国人学習者の日本語学習の早さ、上達度の早さは日本語教育の現場に携わっている教師なら経験的に分かっていることであろう。しかし、高い日本語能力を有する韓国人学習者であっても聞き手に対して不快感を与えたり、不適切な発話を行ったりすることがある。そのような言語行動の違いから所謂異文化間コミュニケーションの摩擦が起こったり、誤解が生じたりすることがある。韓国語を日本語に直訳したような表現を使った場合に誤解が摩擦が生じやすいのではないと思われる。したがって、韓国人学習者が日本語母語話者とより円滑なコミュニケーションを行うためには文法項目の学習だけに止まらず日本人の言語行動についても理解しなければならない。

本稿では日本人と韓国人学習者の言語行動の相違点を明らかにするために調査を行い、考察を行った。その結果、日本語母語話者と韓国人学習者の間には言語行動の相違点が多く存在していることが分かった。今後も日本語と韓国語の言語行動の相違点について調査を続けていきたい。

最後に本稿で明らかになった日本語母語話者と韓国人学習者のコミュニケーション・スタイルの違いについて以下のように表でまとめる。

《健康状態》

KNS・日本語	KNS・韓国語	JNS・日本語
・直接的な表現で具合を聞く。	・敬語を使って丁寧に表現しているが、直接的な表現で具合について聞く。	・敬語を使った丁寧な表現が多い。
・具合が悪いことを断定する。	・具合が悪く見えることをはっきり言う。	・推量の「ようだ・そうだ・みたいだ」などの表現を使って、断定を避ける。
・休んだほうがいと助言する。	・休んだほうがいと助言する。 ・食事、睡眠などについて聞く。	・「顔色がすぐれないよう」などの婉曲的な表現を用いる。

《友人の紹介》

KNS・日本語	KNS・韓国語	JNS・日本語
・「んですが」の表現を使っている学生もいるが、多くなかった。	・ほとんどの学生が「소개시켜 주면 안 될까요? (紹介してくれませんか?)」のような表現を使っていた。	・「んですが」などを使って、依頼の理由などについて説明していた。
・「もしよかったら」「できれば」などの表現を使ったKNSもいるが、4名だけであった。 ・「よかったら」などの表現は、日本滞在期間が長い学生が使用していた。	・「ご飯おごりますよ」などの親近感を表す表現を使っていた。	・「もしよかったら」などの前置き表現を使って、相手に対する配慮を示していた。
・イギリス人留学生の友だちがいることを確認する表現が多かった。	・イギリス人留学生の友だちがいることを確認する表現が多かった。	・「もし余裕がありそうだった」「～てもらえたりしませんか」などのようなぼかし表現を使っていた。

参考文献

- 任榮哲. 2006. 「韓国人とのコミュニケーション」、『韓国人による日本社会言語学研究』真田真治監修、おうふう。
- 荻野綱男. 1989. 「対照社会言語学と日本語教育—日韓の敬語用法の対照研究を例にして—」、『日本語教育』第69号、日本語教育学会。
- 生越直樹. 2006. 「日本と韓国の言語行動対照分析」、『講座・日本語教育学』第2巻、スリーエーネットワーク。
- 陣内正敬. 2006. 「ほかし表現の二面性—近づかない配慮と近づく配慮—」『言語行動における「配慮」の諸相』、国立国語研究所。
- 鈴木睦. 1989. 「聞き手の私的領域と丁寧表現」、『日本語学』第8巻2号、58—67ページ、明治書院。
- 鈴木睦. 1997. 「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」、『視点と主観性』くろしお出版。
- 角田太作. 1991. 『世界の言語と日本語』くろしお出版。
- 野田尚史. 2001. 『日本語学習者の文法習得』大修館書店。
- 益岡隆志. 1992. 「表現の主観性と視点」、『日本語学』11巻9号、明治書院。
- 韓美卿. 1982. 「韓国語の敬語の用法」、『講座日本語学12』明治書院。
- 허명자 (許明子). 2009. 「공유감을 만드는 한국어, 거리감을 두는 일본어」(共有感を作る韓国語、距離感を置く日本語) 『언어 표현을 통해서 본 한일문화』 I (言語表現を通して見た日韓文化)、韓国日語日文学会

資料【アンケート調査用紙】

(もしよろしければ) お名前: XXXXXXXXXX
 (所属: 人文 3年生)

※次の内容について、相手に依頼してください。日本語は「～です/ます体」を使ってください。

1. コンピュータの使い方がわからなくて困っています。先輩の甲にコンピュータにとでも詳しい人がいます。その先輩にコンピュータの使い方を教えてくれるようお願いしてください。



先輩、私、コンピュータの使い方がわからないんですが、教えていただけませんか？

2. 緊急に連絡しなければならない用事ができました。しかし、今日は携帯電話を忘れて持ってきていません。友だちの携帯電話を借りて、電話したいと考えています。友だちに依頼してください。



ちよと、急に電話しなければならぬ用事ができたんですけど、もし良かったら電話を貸してもらえませんか？
 今日は携帯を忘れてしまって…。

3. 指導教官が書いた著書は自分の研究にとでも大事なもので、ぜひ借りて読みたいと思っています。先生にそれについて聞いてください。



先生の書かれた本が私の研究にとでも申し訳ありませんが大変なのですが、もしよかったら少し貸して頂くことはできないでしょうか？

4. レポートの書き方がよくわかりません。友だちが書いたレポートを借りて、参考にしたいたっています。友だちにレポートを借りたい時に使う装綴を書いてください。



レポートの書き方がよく分からないんですが、もし良かったら〇〇さんのレポートを参考にさせてもらえませんか？

5. 英語が上手な留學生と友達になりたいと考えています。先輩の親しい先輩の甲にイギリスからの留學生がいます。その人を紹介してくれるようお願いしてください。



先輩ってイギリスからの留學生の方と仲が良いんですよね。私、英語が上手な留學生と友達になりたいんですが、その人を紹介してもらえませんか？

6. 先生の顔色が悪く病気のようで、心配しています。先生に健康状態について聞いてください。



先生、具合が悪くないですか？
 大丈夫ですか？

◎ご協力どうもありがとうございました。◎

이유: 

※다음과 같은 상황에서 평소와 자신이 사용하는 표현을 한국어로 써 주세요. 일본어 표현과는 상관없이 평소에 자신이 사용하는 표현을 적어 주세요.

1. 컴퓨터의 사용방법을 잘 몰라서 곤란해 있습니다. 선배 중에 컴퓨터를 아주 잘 아는 사람이 있습니다. 그 선배에게 컴퓨터의 사용방법을 가르쳐 주도록 부탁드립니다.



선배님, 죄송한데요, 컴퓨터 잘 하시지요? 제가 컴퓨터 사용방법을 잘 몰라서 그러는데요. 혹시 알려주실 수 있으세요? 부탁드립니다! -!

2. 급히 연락해야 할 일이 생겼습니다만, 오늘은 휴대폰을 갖고 가지고 오지 않았습니다. 친구에게 휴대폰을 빌려서 전화를 하려고 합니다. 휴대폰을 빌릴 때 사용하는 의뢰표현을 적어 주세요.



OO 아, 미안한데 핸드폰 잠깐 빌려써도 돼? 지금 급하게 연락할 일이 있는데 잊어버리고 핸드폰을 안 가져왔어-, 얼른 쓰고 돌려줄게~ 미안-

3. 지도교수가 적은 책이 자신의 연구에 매우 중요한 것이라서, 그 책을 꼭 빌려서 읽고 싶습니다. 지도교수에게 물어 봐 주세요.



선생님, 지금 잠깐 시간 괜찮으세요? 제가 요즘 'N'에 관한 연구를 하고 있는데 선생님의 책을 참고로 좀 하고 싶어요. 빌릴 수 있을까요? 부탁드립니다.

4. 일본어의 레포트 쓰는 법을 잘 몰라서, 친구가 적은 레포트를 참고로 하고 싶습니다. 친구에게 레포트를 빌리고 싶을 때 사용하는 표현을 써 주세요.



OO-san, 미안한데 내가 아까 일본어 레포트 쓸 좀 몰라서 그러는데 내가 집에 있던 것 좀 볼 수 있을까? 내 보여주기 좀 그러면 다른 일본인 친구가 쓸 것도 괜찮은데...

5. 영어를 잘 하는 유학생과 친구가 되고 싶습니다. 선배의 친한 친구 중에 영국에서 온 유학생이 있습니다. 그 사람을 소개해 주도록 의뢰해 주세요.



선배님, 친구 중에 영국인 유학생 있으시지요? 저도 그 분상과 친해지고 싶은데 다음에 소개 좀 해주실 수 있으세요? ^^

6. 선생님의 얼굴색이 좋지 않고 붓이 안 좋은 것 같아서 걱정하고 있습니다. 선생님께 건강이 어떤지 물어 보세요.



선생님, 어디 괜찮으세요? 얼굴색이 안 좋으세요. 어디 아프신 것 같은데, 좀 쉬시는 게 어때세요? 힘이라도 좀 들어드릴까요? 협조해 주셔서 감사합니다.